

2022年3月24日  
フロンティア・マネジメント株式会社  
代表取締役 大西 正一郎  
代表取締役 松岡 真宏

## 2021年度 当社取締役会の実効性評価の実施結果の概要について

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指しており、その実現には、取締役会の実効性を向上し、コーポレートガバナンスのより一層の実質化を図ることが必要と認識しています。

2021年12月期における取締役会の実効性を評価し、さらなる実効性向上のために対応すべき課題を認識しましたので、その概要を以下のとおり開示します。

### 1. 実効性評価方法の概要

#### (1) 評価方法の決定

2021年11月開催の取締役会において、従前のアンケート方式（対象者がアンケートの各設問に対して自由記述をすることで評価する方法）の有効性が認識されたため、2021年12月期の取締役会の実効性評価については、アンケート方式を継続するとの結論に至りました。

#### (2) 評価対象者

全取締役（5名）及び全監査役（3名）

#### (3) 評価方法

- ① 2021年11月から同年12月にかけて、全取締役及び全監査役に対して、取締役会の構成、運営状況等に関するアンケートを実施。
- ② 2022年2月開催の取締役会懇談会（全取締役及び全監査役が出席する会議）において、取締役会の実効性に関する意見交換を実施。
- ③ 2022年3月開催の取締役会において、取締役会懇談会の答申を踏まえて議論した後、2021年12月期の取締役会の実効性評価を確定。

#### (4) 評価項目

2021年12月期アンケートの質問票の大項目は以下のとおりです。設問ごとに、5段階で評価する方式としており、当該項目に関する自由コメント欄を設けています。

- ① 取締役会の構成（4問）
- ① 取締役会の運営（4問）
- ② 意思決定プロセス（2問）
- ③ 取締役会に対する支援（2問）

- ④ 取締役会の監督機能（3問）
- ⑤ 取締役会における議論の状況（2問）
- ⑥ 役員の指名・報酬関連（4問）

## 2. 実効性評価結果の概要

### (1) 取締役会の構成

取締役会の構成に関して、全取締役及び全監査役の大多数が肯定的に評価しております。取締役の規模、社外取締役の割合は適切であると評価する意見、また、取締役及び監査役の高い見識と高い専門性を評価する意見がありました。

しかし、将来課題としてジェンダーや国際性、年齢の面を含む多様性を向上すべきとの意見がありました。

### (2) 取締役会の運営

取締役会の運営に関して、全取締役及び全監査役の大多数が肯定的に評価しております。年間の開催スケジュールは適切な時期に決定していると評価する意見がありました。

また、取締役会における審議の更なる活性化に向けて、取締役会資料の更なる早期配布、取締役会議案の事前説明や臨時取締役会の実施回数の増加等を検討すべきとの意見がありました。

### (3) 意思決定プロセス

意思決定プロセスに関して、全取締役及び全監査役の大多数が肯定的に評価しております。取締役会メンバー全員が責任感と緊張感を持って会議に臨み、十分な意見交換や建設的な議論が実施されていると評価する意見がありました。

また、取締役会が、十分に審議し、適切な意思決定ができるように取締役会の開催時間の延長を検討すべきとの意見がありました。

### (4) 取締役会に対する支援

取締役会に対する支援に関して、全取締役及び全監査役が肯定的に評価しております。

### (5) 取締役会の監督機能

取締役会の監督機能に関して、全取締役及び全監査役の大多数が肯定的に評価しております。

監査役会は代表取締役との定期的な面談を実施し経営陣に対して適切に意見を述べていると評価する意見、また、取締役会メンバーがそれぞれ独立して経営の監督を行っているとの評価する意見がありました。

### (6) 取締役会における議論の状況

取締役会における議論の状況に関して、全取締役及び全監査役の大多数が肯定的に評価しております。

具体的な経営戦略や経営計画等について建設的な議論が行われていると評価する意見がありました。

しかし、自社のサステナビリティを巡る基本的な方針の議論が不十分であるとの意見がありました。

#### (7) 役員の指名・報酬関連

役員の指名・報酬関連に関して、全取締役及び全監査役の大多数が肯定的に評価しております。

社外取締役の指名方針に基づき選任された社外取締役の取締役会における率直かつ活発で建設的な貢献を評価する意見、また、取締役報酬は客観性・透明性のある手続きに従い、短期的な業績と中長期的な業績と連動する報酬制度を設計していると評価する意見がありました。

しかし、サクセッションプラン（後継者計画）の議論が不十分であるとの意見がありました。

### 3. 取締役会の実効性向上の取り組み

(1) 「2021 年度 当社取締役会の実効性評価」により認識した課題を踏まえて、取締役会の実効性の更なる向上を目指し、2022 年度の実効性の在り方について議論を行いました。

(2) 取締役会は、当社の中長期的な企業価値の向上に向けた観点から、重要な事項を先を見据えて十分に議論を重ねていくことが重要であるとの方針を共有しました。また、「2021 年度 当社取締役会の実効性評価」により認識した課題は、適時改善していくことを決定しました。

以上